国際交流員ウィルペルトのコラム

ドイツ人とその書体・前編
Die Deutschen und ihre Schrift Teil 1
(ディー ドイチェン ウンド イーレ シュリフト タイル アインス)

ドイツの本や道路標識を見たら、他のヨーロッパ諸国と同じような文字が使われているのが分かります。その書体を「アンティカ」といいます。ちょうど、このコラムのタイトルに使っている書体です。

でも、昔は違っていました。15世紀半ばからの約500年間、ドイツでは「フラクトゥア」というアルファベットのゴシック体から発展した書体が標準的でした。フラクトゥアには、さらに様々な種類があります。例えば、コッホ・フラクトゥアという書体です。

コッホ・フラクトゥア

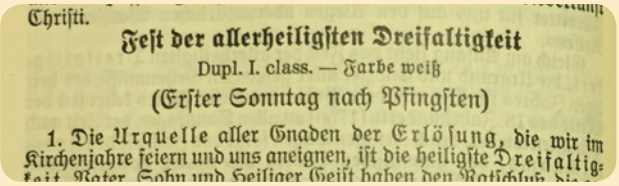
16世紀初頭には、ドイツ語圏（当時はドイツという国はまだありませんでした）で、フラクトゥアとアンティカ、両方の書体を使うという特性が生まれました。ドイツ語の文章はフラクトゥアで、外来語（ラテン語、フランス語、英語など）はアンティカで印刷され、表記されました。でも、使い分けはそこまで厳密ではなかったようです。

18世紀半ばには、ドイツ語は主にフラクトゥアで書かれていました。しかし、それから約200年後には、フラクトゥアを見かけることがほぼなくなります。どうしてだと思いますか？

18世紀後半になって、啓蒙主義や古典主義、フランス革命などの影響で、ドイツではフランス文学やギリシャ・ローマ時代の文学への関心が高まりました。そのため、徐々にアンティカが普及していきました。

そして決定打を与えたのが、アードルフ・ヒットラーです。1941年１月３日に、フラクトゥアを好ましからざるユダヤの文字と断定して、アンティカを使うことを義務づけたのです。

フラクトゥアは、ドイツ語圏だけで使われていて習得が困難でした。そのような書体を使っていたら、ヨーロッパを征服して覇権を握ることはできないと考えたからだという説があります。出版社や新聞社がその指令に従ったので、フラクトゥアでの印刷物は少なくなりました。


Christi.

Fest der allerheiligsten Dreifaltigkeit

Dupl. I. class. — Farbe weiß

(Erster Sonntag nach Pfingsten)

1. Die Urquelle aller Gnaden der Erlösung, die wir im Kirchenjahre feiern und uns aneignen, ist die heiligste Dreifaltig-

フラクトゥアで書かれた古い本

現在、フラクトゥアは、旧市街の道路標識や、旅行者が宿泊したり食事をしたりするお店の看板に見られます。そして、ドイツの主要新聞のFrankfurter Allgemeine Zeitung（フランクフルター・アルゲマイネ・ツァイトゥング）は、その名前をフラクトゥアで標記しています。

また、フラクトゥアより習得が簡単な書体が、学校の美術の授業でカリグラフィーとして教えられています。カリグラフィーとは、専用のペンと形の違うペン先、インクを使った伝統的な美しい文字の書き方です。日本の書道のようなものです。

カリグラフィーの文字と、専用のペン

今回は、ドイツの活字の書体について書きました。では、手書きの場合はどうでしょうか？　ドイツの子どもたちは、どんな書体を学んでいるのでしょうか？

続きは、４月号に書かせていただきます。

国際交流員ウィルペルトさんと天然素材でイースターエッグカラーリングをしよう！

イースターといえば、イースターエッグです。イースターエッグとは、イースターのために作る、特別に色や模様をつけた卵のことです。国際交流員のウィルペルトさんが、食品を使った卵の色付けの方法を紹介します。ドイツの伝統的なイースターエッグカラーリングを一緒に体験してみませんか？

■**日時**　３月 26 日㈯　午後２時～
■**場所**　薬師寺コミュニティセンター
■**参加費**　500 円
■**申込期間**　３月７日㈪～ 18 日㈮
■**申し込み・問い合わせ先**
市民協働推進課　☎(32)8887
※子ども向けイベントも開催！→ P31

TAKE FREE

広報しもつけを設置してくださるコンビニエンスストアなどのお店を募集しています。ご協力いただける場合は総合政策課☎ (32) 8886までご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ